

団子塚古墳群H-1号墳 発掘調査概報



2013

静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は、静岡県袋井市諸井に所在する団子塚群H地点1号墳（以下、「H-1号墳」）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、施設拡充事業に先だって和光商事株式会社（代表取締役 芝田 俊行）より委託を受け、袋井市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は袋井市諸井字北山2048番4他を対象として実施し、その面積は391㎡である。
4. 発掘調査期間は下記のとおりである。
平成24年11月13日～平成25年3月31日
5. 発掘調査及び整理作業、本書の執筆、編集は袋井市教育委員会生涯学習課の水野雅彦が担当した。
6. 発掘調査および本書の発刊に係わる事務は袋井市教育委員会生涯学習課文化財係が担当した。
7. 調査体制
発掘調査実施機関 袋井市教育委員会
教育長 小林 哲雄
教育部長 三浦 鉄朗
生涯学習課長 早川 俊之
生涯学習課長補佐 早川 清美
生涯学習主幹兼文化財係長 永井 義博
主査 水野 雅彦（調査担当者）
臨時事務員 鈴木寿美子
臨時調査員 原 利秋
8. 本書で用いた遺構・遺物出土状況写真は株式会社フジヤマ及び水野が現地で撮影したものである。
9. 発掘調査によって出土した遺物、関係資料・記録は袋井市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・遺物整理従事者
田中利江、富樫孝松、萩田権治、前嶋さとし、雪島和夫、松永門絵
11. 発掘調査にあたっては下記の方々にご教示、資料提供を賜った。（敬称略）
芝田政行、平出至、永田洋康、石山知良、前田匡秀、時田直宏、川江秀孝、柴田稔、鈴木一有

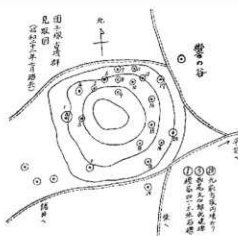


団子塚古墳群H-1号墳 調査位置図

はじめに

団子塚古墳群は、静岡県袋井市高尾及び諸井地内に所在している。この古墳群が立地する袋井市中央部のやや南に広がる小笠山塊西麓の段丘上には、多くの古墳が見られたことから、“団子塚”と呼ばれている。『浅羽町史』（1997浅羽町）には「字名には団子塚の名は無く、地元の通称であり、その範囲もはっきりしない」との記載がある。原田和氏による1947年の現地踏査記録を『浅羽風土記』（1957浅羽町教育委員会）に見ると、標高41.3mの三角点のある古墳（今回調査地）のある付近のみを団子塚と呼称していたようで、周囲には三角点の載る古墳も含め、23箇所の古墳が密集して周囲よりやや小高い丘の上に所在していたことが図示されている。

調査地付近での近年の開発による地形改変は著しく、現在では旧地形を想像することは難しく、開墾により消滅した古墳も多い。現在では墳丘が確認できるものは調査した古墳以外には供養碑のある古墳1基のみとなった。それは土地所有者らによる開墾により茶園化が進み、それにとまって多くの古墳が破壊されたためである。その時出土した遺物の一部は東京国立博物館に寄贈されてい



団子塚古墳群見取り図（原田和氏1947年作成）

るものや土地所有者が保管（『浅羽町史』掲載資料）するものがある。

団子塚古墳群は旧袋井市と旧浅羽町の合併以前、旧袋井市側の高尾向山古墳群、響ヶ谷古墳群と旧浅羽町側の北山古墳群とある程度のまとまりごとに別称で認識されていた。旧袋井市と旧浅羽町によって1990年から行われたゴルフ場建設に伴う調査において、古墳群とともに弥生時代の集落跡及び墳墓群が発見され、一連の遺跡が同一遺跡であることが判明したことに伴い、これに準じて付近の古墳群も同一の古墳群とした。



団子塚古墳群H-1号墳 遠景（東より）

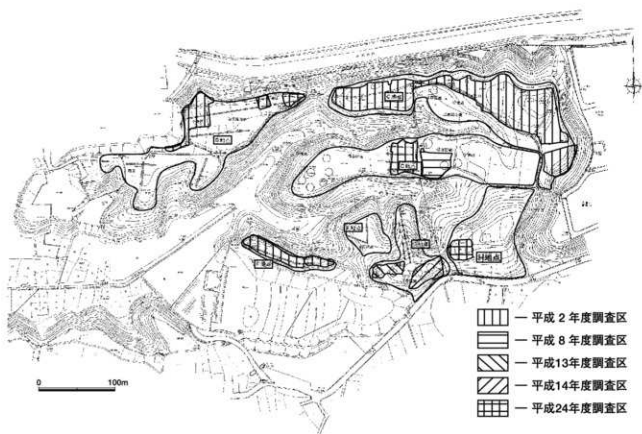
調査の概要

団子塚古墳群H-1号墳は、JR「袋井駅」より南約1.5kmに位置する。団子塚古墳群の存在は早くから知られていた。土地所有者らによる開墾で多くの古墳が失われたが、これまで和光商事株式会社によるゴルフ場建設事業や温泉施設建設事業等により大規模な面積の発掘調査が実施され、資料の蓄積のある地域でもある。

1990年から行われたゴルフ場建設に伴う調査において団子塚遺跡の調査区呼称が決定された。旧浅羽町教育委員会による調査報告書（『団子塚遺跡（Ⅰ）』1992）に従い地区呼称することとし、本調査対象である三角点の載る古墳はH地点に含まれ、H地点で最初の発掘調査であることから1号墳とした。

過去の調査については、旧浅羽町教育委員会により北山遺跡（団子塚遺跡A地区の別称）を1984

年9月25日から11月25日及び1985年8月7日から12月15日まで2カ年実施し、古墳4基の他弥生時代の墳墓等が発見された。団子塚遺跡の第1次調査が1990年5月1日～1991年3月31日までを調査期間とし、B・C・E・F・G区の調査され、B地区では古墳3基（旧称13・14号墳：B-1・2号墳）他、C地区では古墳2基（C-11・12号墳）他が調査された。D及びE、F地区では弥生時代の遺構のみ調査であった。また、旧袋井市教育委員会の調査では1990年4月1日～1991年3月31日までを調査期間としB及びC地区の調査を実施し、C地区において9基の古墳の調査と調査区外に1基古墳（C-1～10号墳）を確認し、10基の古墳と弥生時代集落及び墳墓が調査されている。その後、旧浅羽町教育委員会は団子塚古墳群第2次調査としてD（D'）地区において古墳2基（D-1・2号墳）が1996年4月17日から



団子塚古墳群周辺旧地形及び調査地点図（『団子塚遺跡（Ⅰ）別図1に加筆』）

7月17日で実施した。第3次調査は2001年9月20日から2002年1月31日の期間でG地区を対象に調査が行われ、4基（G-1～4号墳）の古墳が確認された。第4次調査では同じG地区で3次調査区の東側において、2003年2月3日から3月31日の期間で調査が行われ、5基（G-5～9）の古墳が調査されている。その東側で本調査区はH地点に含まれ、現在、H地点にはH-1号墳以外には供養塔の載る古墳が1基のみが残されていない。

2011年12月、和光商事株式会社（代表取締役 芝田俊行）からH-1号墳が所在する土地の開発に向けての相談があり、現地確認調査を行ない、古墳が所在することが確認された。2012年1月25日付けにより試掘調査の依頼書が提出され、それを受けて2月17日に試掘調査を実施した。墳頂部の三角点標識を除けるように、その東側に南北方向のトレンチ（3.0×0.6m）、石標の北側に東西方向のトレンチ（0.6×2.0m）を設定し遺構の残存状態を確認した。また、墳丘北側及び北東側にそれぞれトレ

ンチを設定し、古墳周囲の遺構を確認した。その結果、石室が依存し、周溝の一部と考えられる遺構（本調査の結果、周溝は無かった）が残されている事が確認された。この調査結果を受けて、袋井市教育委員会は和光商事株式会社と協議し、結果、発掘調査に全面的な協力を約束していただいた。

調査は2012年11月13日～2013年3月31日の期間とし、調査で検出された遺構の測量及び調査区全景写真等は株式会社フジヤマが和光商事株式会社より直接依頼を受け実施した。

調査方法は、調査地区全体をバックフォーにより客土の除去を行い、ジョレン等により遺構の検出を行った。現地図面は1/100縮尺とし、石室は1/10縮尺で実測を基本とした。記録写真はブローニサイズ原画（白黒及びカラー）と35mmサイズ原画（カラー）を使用した。



団子塚古墳群H-1号墳 全景（南より）

調査の成果

調査の結果、団子塚古墳群H-1号墳は外観は1基の古墳のようであるが、主体部を2基持つ二連古墳と見られ、C-7号墳（三基の主体部）のような団子塚である。墳丘は東西16.0m、南北16.0m、高さ2.0mを計る楕円形を呈する円墳で、周溝は検出されなかった。墳丘が立地する地点は、西方向から東へ伸びる谷の奥で、標高38mを計り、付近では最も高い場所に立地している。昭和20年代までは付近に20基近く古墳が残されていたようであるが、現在は東へ約30m離れた場所に供養塔の載る古墳が1基残されているのみとなっている。東側の第1主体部は出土遺物の状況から2度以上の追葬が確認され、石室内の床面直上より装身具・武器類・馬具・土器類が出土している。西側の第2主体部は床面直上から装身具・武器類・土器類が出土しているが、東西両石室とも床面に武器類や馬具類と見られる鉄片が散乱していた。

第1主体部は、比較的良好状態で残る両袖型横穴式石室である。石室の規模は、全長（現存）7.90mを計り、玄室の最大幅は1.6m、羨道部の最大幅は0.7mを計り、奥壁の高さ（現存）1.1m、奥壁幅1.3mを計る。東西側面は全長4.8mで東西側壁高さ0.9mを計る。根石のみ比較的大き扁平な川原石を横口積みを使用している。二段目から壁にかかる力を考慮し少し小ぶりの川原石を小口積にて構築し、石室内に落ち込んでいた天井石（1.0m×0.5m）を乗せていたものと考えられる。C-6号墳と同様に、床面に中央部より北側に人頭大の扁平な円礫を敷き詰めている。玄門としての立柱を立てており、羨道は玄室から一段低く造られて、封鎖施設は確認できなかった。

G-10号墳は石室造営に合わせてマウンドの築造を行う古墳であるため堀り方は無い。墓道は南側に一部（1.4m分）が確認できるが開壁により全長は不明である。

第1主体部の装身具としては、銅芯金貼りの耳環が2点对で3組が出土しており、追葬が2回行われたと考えられる。最初の被葬者は石室の西側奥に

埋葬されており、片手分の銅鋼及び丸玉、ガラス玉、琥珀玉も原位置と見られる場所に残されていた。また、石室手前東側には追葬者のものと見られる管玉と丸玉が出土している。武器・馬具類は第1被葬者のものと見られ、4口の大刀は追葬時片付けられた様で、石室手前西側に土器群とともに壁面に寄せられていた。それ以外の馬具や鉄鍬、刀子片とともに床面に散乱していた。土器類は須恵器坏身・坏蓋・高坏・提瓶・高台付長頸壺・甕・甕があり、土器器坏身もまとまって西壁付近に積み重ねられていた。

第2主体部も、比較的良好な状態で残る無袖型横穴式石室である。石室の規模は、全長（現存）5.90mを計り、玄室の最大幅は1.0m、羨道部の最大幅は0.6mを計り、奥壁の高さ（現存）1.1m、奥壁幅0.9mを計る。東側面は全長3.3m、西側面は3.4mで東側壁高さ1.2m、西側壁高さ1.1mを計る。根石のみ比較的大き扁平な川原石を横口積みに使



第1主体部（羨道方向より）



第2主体部（羨道方向より）



第2主体部 遺物出土状態

用している。二段目から壁にかかる力を考慮し少し小ぶりな川原石を小口積で構築し、奥壁上部には天井石（ $0.8 \times 0.4\text{m}$ ）が1個残り、床面には敷石は無い。石室の構築方法は第1主体部と同様で有るが、第2主体部は横幅が狭く天井石も大きなものは使用されていなかったと考えられる。羨道は玄室と同じ高で南に向かい傾斜している。封鎖施設は確認できなかった。

第2主体部の装身具としては、銅芯金貼りの耳環が2点对と丸玉・緑泥片岩製管玉・瑪瑙製勾玉・ガラス小玉・水晶製切子玉が出土しており、追葬は無かったと考えられる。武器類は大刀が3口までは確認できるが、石室床面に大刀を含む鉄製品片が散乱しているので、正確な数は不明であり、それらが散乱しているのは、追葬による片付けか盗掘などのいたずらと思われるが特定はできないのが現状である。土器類は須恵器坏身・坏蓋・提瓶・高台付長頸壺・甕と土師器坏身が石室入り口付近にまとまって発見された。

H-1号墳の被葬者の年代は、その出土遺物から第

1主体部の石室奥西側の第1被葬者は7世紀後半、石室手前東側の第3被葬者は8世紀前半と見られる。また第2主体部の被葬者がその間に入る8世紀初頭と見られる。しかし、第1主体部石室奥東側の第2被葬者は出土遺物が確認できないため、現時点で時期が特定はできない状況であるため、出土遺物の整理作業の終了を待ちたい。

まとめにかえて

団子塚古墳群の一画における民間事業者による施設拡張事業計画を契機として実施されたH-1号墳の調査では、調査着手前には予想されなかった遺構や遺物が確認された。

この調査対象の古墳の呼称は『浅羽町史』通史編の記述に従い、狭義の団子塚はH地点とするため、本調査古墳は団子塚古墳群H地点の1号墳とした。

このH地区は、1947年の原田和氏の現地踏査による分布図に20基の古墳が密集していたことが記されている。しかし、現在は調査しH-1号墳以外には、西尾文四郎氏建立の供養塔が載る古墳が1基しか残されていないため、古墳が密集していたための通称として団子塚は姿を消そうとしている。

『浅羽町史』通史編によると、「袋井町高尾向山団子塚古墳出土」の六鈴鏡は五世紀後半に遡るもので、この時期より当地での古墳の築造が始まったと考えられる。続くC-5号墳と挂甲や馬具等を副葬していた木棺直葬の埋葬施設を有しているC-9号墳は六世紀前半期の造営と見られる。横穴式木芯粘土室の主体部を持つG-1～3号墳（2001調査）、C-10号墳が6世紀後半、横穴式石室のC-1～4号墳が6世紀後半～7世紀前半、横穴式木芯粘土室のA-1（北山1）号墳～A-4（北山4）号墳の4基とD-1、D-2号墳が6世紀末から7世紀前葉の造営とな

り、横穴式石室を主体部とする多くの古墳へと推移し、H-1号墳第1主体部の追葬者とC-6号墳第2主体部被葬者、C-7号墳第3主体部被葬者の8世紀前半まで連続と造営が続いてきたと理解できる。それは、この古墳群が木棺直葬主体部を持つ2基があるC地点中央部から造営が始まり、横穴式木芯粘土室主体部の西端のA地点4基及び最南端のG地点3基及び中央部のD地点の2基へと続き、横穴式石室墳のC地点6基、G地点4基、H地点1基となり、その後、8世紀代に入り単独墳の造営が無くなり、石室墳への追葬や既存の墳丘へ主体部と墳丘の付け足しへと移行している。

今回調査したH-1号墳はその出土遺物から団子塚古墳群造営末期に造られた古墳とみられるが、詳細については整理作業終了後に改めて報告したい。

最後に、芝田俊行氏をはじめとする和光商事株式会社の皆様は、調査に対して理解を示しめ下さり、様々なかたちで調査にご協力いただいた。また、ワコーゴルフ株式会社及び日帰り天然温泉 遠州 和の湯、温泉とらふぐ研究所の関係者の方々など、調査期間中にお世話になった皆様に心から感謝し、更なるご協力とご指導をお願いして結びとしたい。

引用参考文献

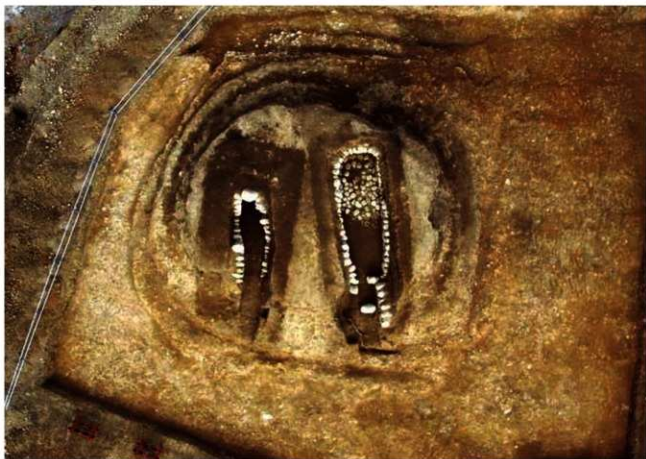
- 『浅羽風土記』 1957 原田和
- 『浅羽町史』 通史編 2000 浅羽町
- 『浅羽町史』 資料編一 考古・古代・中世 1997 浅羽町
- 『北山遺跡』 1987 浅羽町教育委員会
- 『団子塚遺跡（1）』 1992 浅羽町教育委員会
- 『団子塚遺跡確認調査の記録』 1999 浅羽町教育委員会
- 『団子塚遺跡』 遺構編 1992 袋井市教育委員会
- 『団子塚九号墳 出土遺物保存処理報告書』 1994 袋井市教育委員会
- 『高尾向山遺跡』 1990 （財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 『高尾向山遺跡Ⅱ』 1996 袋井市教育委員会
- 『かけのうえ遺跡』 2002 袋井市教育委員会・袋井市建設経済部区画整理課
- 『新堀遺跡』 1993 （財）静岡県埋蔵文化財調査研究所



H-1号墳 全景（調査前）



H-1号墳 全景（南より）



H-1号墳 垂直写真



H-1号墳 第1主体部（築造方向より）



H-1号墳 第1主体部（奥壁方向より）



H-1号墳 第1主体部（東南より）



H-1号墳 第2主体部（奥道方向より）



H-1号墳 第2主体部（奥壁方向より）



H-1号墳 第2主体部（東南方向より）



H-1号墳 第2主体部奥壁（南より）



H-1号墳 第1主体部 第1被葬者装身具出土状態



H-1号墳 第1主体部 遺物出土状態



H-1号墳 第2主体部 被葬者装身具出土状態



H-1号墳 第2主体部 武器類出土状態



H-1号墳 第2主体部 遺物出土状態

ふ り が な	だんごづかこふんぐん ごうふんはくつちようさかいほう							
書 名	団子塚古墳群 H-1 号墳発掘調査概報							
副 書 名	和光商事株式会社施設拡充事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
編 著 者 名	水野雅彦							
編 集 機 関	袋井市教育委員会							
所 在 地	〒 437-8666 袋井市新屋 1-1-1							
発 行 年 月 日	2013 年 3 月 31 日							
所 収 文 化 財 名	団子塚古墳群							
文 化 財 所 在 地	静岡県袋井市諸井							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
団子塚古墳群 H-1 号墳	袋井市諸井 字北山 2048-4 2048-10	22216	192	34° 43' 49"	137° 55' 39"	2012 年 11 月 13 日 ～ 2013 年 3 月 31 日	391㎡	施設拡張 に伴う 造成
所収遺跡名	種 別	主な遺構		主な出土遺物		特記事項		
団子塚古墳群 H-1 号墳	古 墳	横穴式石室		銅製金巻耳環、玉類、 銅製銅、大刀、鉄鏃、 須恵器、土師器				

和光商事株式会社施設拡充事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

団子塚古墳群H-1号墳発掘調査概報

2013年3月31日

編集 静岡県袋井市教育委員会
静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 株式会社 大進堂
静岡県磐田市岩井2295